

場所 京都府木津川市

面積 1.38ha

活動目的 地域の小中学生向けの自然観察会や、社員向けの環境教育の場として活用しているほか、地域の生物多様性の保全に貢献することを目的としている。

サイト概要 積水ハウス総合住宅研究所には、樹林・草地・水辺のエリアがあり、ここでは日本の在来種を中心に多種多様な植物を育てている。隣接するTomorrow's Life Museum 関西は、「5本の樹」計画（※）に基づいた植栽計画を実践した体感型のミュージアムである。メンテナンスについては「現状を維持する管理」ではなく、「緑地が成長し続ける中で生態系ネットワークが豊かになることを手助けする管理」を行っている他、環境教育活動も行っている。

※「3本は鳥のために、2本は蝶のために、地域の在来樹種を」をコンセプトとした、生態系に配慮した当社独自の庭づくり・まちづくりの取組。



土地利用の
変遷

1980年代にURが造成した「平城・相楽ニュータウン」の中に、1990年に積水ハウスが総合住宅研究所を建設。当該地は粘性土が多く、樹木など植物の生育が当初芳しくなかったが、土壌改良や排水改善の工事などを継続的に進めた結果、今では樹勢を高め植物たちが健全に育つことが可能となった。

サイト周辺の
環境

京都と奈良の県境にある関西文化学術研究都市内のハイタッチリサーチパーク内に位置する。1980年代まで、雑木林や竹林が至る所に広がり池などもあった。1980年代以降は都市開発とともに多くの建築物や道路が造成されたが、今も一部に雑木林や田畑が残っている。

アピール
ポイント

敷地内に造成前から生育していたアラカシやスダジイなどの在来種の植栽を積極的に行い、地域の自然を再生することを目指した。建物周りに緑地帯を連続的に配置することにより、コリドー（回廊）が出来、野鳥や昆虫たちがどの方向からも敷地内に入出入りできるようにしている。年に数回、専門家が動植物の調査を実施しており、2023年度は約19種の鳥類や85種の昆虫類を含む124種の動物が確認されている。

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは「5本の樹」計画に基づき、日本の原種・在来種を中心に植栽されており、夏季には草花に訪花昆虫がみられ、冬季は木の実を採食する鳥類が飛来する。また、地域の小中学生を主な対象とした生きもの観察会、社員を対象とした「5本の樹」計画の研修、一般の方を対象にしたTomorrow's Life Museum 関西での「5本の樹」計画を取り入れた豊かな暮らし方の体感イベントなどを実施している。

【主な植生】

主な植生は以下の通りである。

- ①総合住宅研究所：ケヤキ、ムクノキ、エノキ、エゴノキ、クロガネモチ、クヌギ、アラカシ、ヤマボウシなど
- ② Tomorrow's Life Museum 関西：ソヨゴ、アオダモ、ケヤキ、ヤマモミジ、マテバシイ、ホルトノキ、ハクサンボクなど

【確認された主な動植物など】

本サイトでは、約124種の動物が確認されている（哺乳類3種、爬虫類2種、鳥類19種、昆虫類85種、クモ類15種）。主な種は以下のとおりである。

- ・哺乳類：ニホンアナグマ
- ・爬虫類：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ
- ・鳥類：コゲラ、モズ、ヤマガラ、シロハラ、ツグミ
- ・昆虫類：チョウトンボ、マユタテアカネ、ニシキリギリス、ヤマトタマムシ
- ・クモ類：ビジョオニグモ、ジョロウグモ



写真の説明：総合住宅研究所内のせせらぎと緑地



写真の説明：緑豊かなTomorrow's Life Museum 関西

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
〈活動目的〉 地域の小中学生や社員向けの環境教育の場として活用しているほか、地域の生物多様性の保全に貢献することを目的としている。 〈活動内容〉 (1) モニタリング サイトに生息する動物の調査を実施し、区域内における動物の実態の把握を行う。得られた調査結果をもとに、生物多様性の観点から、今後の維持管理計画に反映させるとともに、環境教育活動の取組に活用することを目的とする。 (2) 環境教育などの活動 地域の小中学生を主な対象とした生きもの観察会、社員を対象とした「5本の樹」計画の研修、一般の方を対象にしたTomorrow's Life Museum 関西での「5本の樹」計画を取り入れた豊かな暮らし方の体感イベントなどを実施しており、今後も継続する。 (3) 生物多様性の保全（下記は鳥類） ①バードフィーダー：鳥類の食料資源が乏しくなる冬期に生活の手助けを行う。生態系に影響を与えないように、設置時期は11～3月に限定する。 ②巣箱：樹洞繁殖性鳥類に人工的に巣穴を提供する。シジュウカラやヤマガラの利用が期待される。 ③バードバス：鳥類の水分補給や、羽を清潔にするために水場を設置する。 〈実施体制、計画の点検、見直し〉 当社 環境推進部を中心にモニタリングは3年に1回程度実施予定	【モニタリング対象】 哺乳類、両生類、爬虫類、鳥類、昆虫類、クモ類を対象とする。 【モニタリング場所】 ①総合住宅研究所、②Tomorrow's Life Museum 関西 環境ポテンシャルを把握するために、区域の周辺緑地（半径500m以内）をモニタリング範囲に含める。 【モニタリング手法】 ・哺乳類：自動写真撮影 ・鳥 類：目視・鳴き声確認、自動写真撮影 ・両生類、爬虫類、昆虫類、クモ類：目視・鳴き声。直接観察、任意採取 【モニタリングの実施時期及び頻度】 ・3年に1度、年3回程の頻度で実施予定。 （2023年は2月、7月、9月に実施） 【モニタリング実施体制】 当社 環境推進部、外部の調査会社及び専門家との共同実施。